

## 編集後記

ようやく『マレーシア研究』11号をお手元にお届けすることができました。予定を約半年過ぎての公刊となりましたこと、お詫びいたします。

2020-21年度の理事会では、学会誌を執筆経験の少ない著者の飛躍の契機にしようという方針が確認されました。この方針をご理解くださり、査読にあ

たって教育的な配慮に溢れたコメントをくださった先生方に、心よりお礼申し上げます。また、残念ながら不採用となった方にも、貴重なコメントを活かして再投稿に挑戦していただければと思います（鈴木）。

〔第11号編集担当・五十音順〕

市川卓、金子奈央、塩崎悠輝、鈴木絢女（委員長）、富川英生、村井寛志

## 投稿募集

『マレーシア研究』への投稿を募集しています。下記の投稿要領およびJAMSウェブサイトに掲載されて

いる募集要領に従って原稿をお送りください。投稿は随時受け付けております。

## 投稿要領

『マレーシア研究』は日本マレーシア学会の会誌であり、広い意味での「マレーシア研究」に関する論説、研究ノート、書評論文、および書評を掲載する。刊行は1年に1回とし、投稿は随時受け付ける。

1. 投稿資格：会費を納めた会員および編集委員会が依頼した執筆者とする。
2. 投稿内容：未発表のものに限る。ただし、学会、研究会での口頭発表はこの限りではない。また、同一の原稿を本誌以外に同時に投稿することはできない。
3. 使用言語：投稿原稿で使用できる言語は日本語とする。ただし、注記などにおいてはその他の言語を使用できる（日本語・アルファベット以外の文字を使う場合は編集部にご相談すること）。また、採用された原稿については英文要旨を併せて掲載する。
4. 原稿の種類：論説、研究ノート、書評論文、書評、フォーラムの5種類とする。投稿原稿の枚数は40字×30行を1枚と換算して、論説が15～20枚、研究ノートが10～20枚、書評論文が5～10枚、書評が2～5枚、フォーラムが1～3枚とする（いずれも注・図表・参考文献を含む）。原稿に挿入される図表については、大小にかかわらず3点を1枚と換算する。
5. 執筆要領：投稿に際しては、本学会のホームページに掲載された「執筆要領」に準拠した完成原稿を提出する。また、論説、研究ノートについては、論文要旨（1200字程度）を提出する。

6. 査読制度：論説、研究ノート、書評論文として投稿された原稿は、レフェリーによる審査結果を考慮の上、編集委員会が採否を決定する。
7. 査読のない原稿：上記6に該当するもの以外の原稿については、編集委員会が内容の適切さや学会の目的に照らした妥当性にもとづき掲載の可否を判断する。
8. 英文要旨：採用された場合には約400語の英文要旨を提出する。英文要旨は提出前にネイティブ・チェックを受ける。ネイティブ・チェックにかかる経費は投稿者が負担するものとする。また、編集委員会が必要と考えた場合、同委員会は投稿者の経費負担によりネイティブ・チェックをかけることがある。
9. 著作権：本誌に掲載されたすべての原稿の著作権は日本マレーシア学会に帰属する。なお、原著者が本誌に掲載された文章を他の出版物に再録しようとする場合には、編集委員長に申請し許可を得る。
10. ホームページ上での公開：『マレーシア研究』に掲載されたすべての原稿は、日本マレーシア学会のホームページにて公開する。
11. 投稿先：投稿先および問い合わせ先は下記のとおりとする。なお、投稿に際して、投稿者は、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の住所・電話番号・E-mailアドレス、投稿題目、原稿の種類を明記する。
12. 本要領の改正：本要領を改正する場合は、理事会による承認を得なければならない。

2020年12月5日改正

## 『マレーシア研究』第11号

発行：2022年8月31日

発行者：日本マレーシア学会（JAMS）

（ウェブサイト）<http://jams92.org/>

（連絡先）〒606-8502 京都府京都市左京区吉田下阿達町46

京都大学東南アジア地域研究研究所 山本博之研究室

発行責任者：穴沢真

編集責任者：鈴木絢女

## Malaysian Studies Journal

Vol.11 (August 31, 2022)

Editorial Office: Japan Association for Malaysian Studies (JAMS), c/o Yamamoto Hiroyuki, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 46 Shimoadachi-cho, Yoshida Sakyo-ku, Kyoto, 606-8501, Japan

Website: <http://jams92.org/>

© 2022 Japan Association for Malaysian Studies (JAMS)